

令和 7 年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会
第 1 回 生田緑地ばら苑再整備検討部会 会議摘録

1 開催日時

令和 7 年 7 月 1 1 日（金） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 0 0 分

2 開催場所

川崎市役所復元棟 3 階 3 0 3 会議室（オンライン併用）

3 出席委員

金子 忠一 委員、倉本 宣 委員、垣内 恵美子 委員、薬袋 奈美子 委員、
橘 たか 委員（計 5 名）

4 事務局

・緑政部長		磯部 由喜子	
・みどり・多摩川事業推進課	担当課長	小藪 隆文	
・みどり・多摩川事業推進課	担当係長	渡仲 百絵	
・みどり・多摩川事業推進課	担当	川原 瑠依紗	
・みどりの保全整備課	担当係長	小林 和博	
・みどりの管理課	課長	中村 豊	
・生田緑地整備事務所	所長	松本 茂人	（計 7 名）

5 会議の公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

0 名

7 次第

1 開会

2 議題（1） 生田緑地ばら苑管理運営方針策定に向けた検討状況について

8 議事摘録

【次第 1 開会】

磯部部長（開会挨拶）

事務局（委員の紹介）

現地には東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 元教授の金子 忠一様、明治大学 農学部教授の倉本 宣様、武蔵野大学大学院 非常勤講師の橘 たか様にご出席をいただき、オンライン参加では政策研究大学院大学 名誉教授の垣内 恵美子様、日本女子大学 建築デザイン研究科 建築デザイン専攻教授の葉袋 奈美子様にご出席をいただいている。なお、専修大学 ネットワーク情報学部教授の佐藤 慶一様におかれましては、本日は欠席でございます。

事務局 (職員の紹介)
ここからの進行は会長にお願いしたい。

金子会長 それでは、次第に従い委員会を進める。『会議の公開について』、事務局から説明されたい。

事務局 川崎市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定に基づき、附属機関等の会議は原則公開となる。そのため、本委員会については、公開により審議を行う。

【各委員 了承】

金子会長 ご意見がなければ、本会議については、事務局からの説明のとおり、原則公開として進めていきたいが、よろしいか。

【各委員 了承】

金子会長 それでは、会議は公開を原則として進めていきたい。本日は、傍聴希望者は居るか。

事務局 傍聴希望者なし。

【次第2 議題】

金子会長 それでは、次第にしたがって進める。次第2の(1)「生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた検討状況」について、事務局で説明した後に、委員の皆様から御意見、御質問等をいただきたい。それでは、事務局から説明をお願いする。

事務局 (会議資料1 「生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた検討状況について」に基づいて説明)

金子会長 それでは、委員の皆さんから意見、質問等をいただきたい。意見等がある方は挙手をお願いします。

薬袋委員

- ・一点目は、どんなばら苑にしていくのか、市民に納得感があると思うが、そのための説明や意見交換はどのように想定しているのかという点。職員は色々な場所のバラ園を見てお考えがあると思うが、学び・考えるプロセスをある程度市民と共有していただけるとよいと思う。報告会や、それを踏まえた検討会などで共有して考えられるような場があると、その後のばら苑は応援しやすいものとなる。
- ・二点目は、ばら苑のみについてではなく周辺環境も含めてであるが、生きもの調査はどれくらいされているのかということ。環境アセスメントで十分なのか。今回の事業区域にはない部分も併せて調査して、何を守るべきなのか、これからどういう風に管理していくのかを検討していただきたい。
- ・三点目は、ボランティアの立て直しに当たってはどのように進めるつもりかということ。閉苑中ボランティアを募集して勉強会をやって、ボランティアが何をできるのかを話す場を設けるなどもあると思う。提案も含めた意見である。
- ・四点目は、ミュージアムの大きさについて。ミュージアムの敷地をどのように決定するのかぼんやりしたイメージになっている。既に今緑があるところも含めて計画すると、規模の大きいものができてしまうのではという懸念がある。
- ・五点目は、美術館のボリュームや高さなどはどのように示されるかということ。例えば、ばら苑はその場所のままで、臨時駐車場のところをミュージアムにするというようなことなのか。ばら苑の北側にある、ばら苑の階段をのぼってきた見晴らせる高台からの景観を変えないというのは今回の全体の計画づくりの中でポイントにすべきところではないか。基本方針や考え方に入れていただきたいと思う。

金子会長 事務局から回答をお願いします。

事務局 ・職員では他園を視察するなど、情報収集を行っており、今回

の委員会でもバラのコレクションプランなどの方向性を審議いただいているため、それらを取りまとめたうえで、すでに行っているボランティアの皆様との情報交換をする場などの中で、コンセプトを共有していきたいと考えている。

- ・生き物調査については市民文化の新たなミュージアムがアセスの関係で今後調査をしていくと聞いているため、範囲などが分かればまた今後情報提供をさせていただきたい。

- ・ボランティアについては、ばら苑にアプローチするアクセス路が小田急の用地になっており、向ヶ丘遊園跡地の工事が開始になると、一般の方が入っていくのが難しいという話を小田急と話している状況である。一度解散という方向を示しているが、貴重な財産だと思っており、再整備後にボランティア活動ができる状態を作していきたい。再整備する前にどのように準備するのか、今後検討を進めていきたい。

- ・ミュージアムの大きさ・敷地・高さに関しては、庁内で検討を進めており、近いうちに市側からお示ししたい。

金子会長

今の事務局の説明について質問はあるか。

薬袋委員

- ・ばら苑のボランティアの皆さんには逐次、状況や考え方を説明しているということで理解したが、調べたことをもう少し共有していただいたほうがよい。ボランティアの育成については早め早めに動いていただき、今まで以上に様々な方が関わるようになるとうい。

- ・環境アセスメントのみの検討でよいのか。第三者性のない調査となる懸念がある。緑政部の方で責任を持って調査を依頼するなど、環境アセスメントの前の段階の評価が出来ればよいと思う。しっかり考えていただきたい。

- ・ミュージアムの高さについては、経営方針の中に書き込めないか。生田緑地の豊かな環境が維持されるようにするとか、高台からみどりだけが見える景観にしますとか。他の先生方の御意見も伺いたい。

金子会長

今の話を踏まえて、他の先生方の考えを伺いたい。

倉本委員

アセスメントは環境影響評価であって、どのようなばら苑やミュージアムをつくるかということを計画的に、なおかつ保証す

るものではないというのが、黒川農場の環境アセスメントを実施した時の経験であった。500円玉くらいしか大きさのない、日本で一番小さな野ネズミについて「ここからは絶滅する」という予想があり、予想の通りいなくなった。そういうことでも、予測評価は正しいわけです。「どういう自然にするのか」をきちんと議論する必要があるって、それは薬袋さんのおっしゃる通りである。

金子会長

他に伺いたい。垣内先生にお願いします。

垣内委員

・一点は、薬袋先生のコメントと被る部分もあるが、そもそもばら苑の整備は生田緑地本体との関係、隣の市民ミュージアムとの関係はどうなのかというところ。最終的には管理経営の考え方と密接に関わる。ミュージアムと一体的に整備するというが、市民ミュージアムはミュージアムでPFIを実施し、管理運営をするのか。ばら苑はばら苑で整備し、管理運営をするのか。生田緑地は3つのミュージアムあるが、学芸分離ということで一体的な管理運営自体を指定管理で一括で行っているが、ミュージアムの本体的な機能とか基盤になる研究、展示を学芸部門が主導的にやっていると理解している。市民ミュージアムも生田緑地のなかの市民ミュージアムとして整備するという整理になっており、ばら苑も資料2ページ目にあるように、最終的に生田緑地の価値魅力を向上させることを目指している。既存のものと今後新しく作るものとを、どういう関係性を持って価値魅力を向上させるところに繋げるのかをある程度明確にしていかないと、この後の議論がうまく進まないのではないかと懸念している。市民ミュージアムも整備検討会議を実施しており、色々な可能性を検討できる段階である。市として生田緑地全体の中のばら苑をどういう形で整備するのか、確認させていただきたい。

・二点目がボランティアとの関係である。ボランティアの方々が通常のボランティア活動より踏み込んで参画していると伺っている。これまでの活動のノウハウや実績を生かしていく方がいいと思うし、本当に解散してしまうことでよいのか疑問に思う。過去にミューザ川崎の天井が崩落して休止になったのち、工事開始後に施設自体は使えなかったが、川崎市内の各所で色々な活動を行った。施設利用が再開したときに、チケットが完売した。潜在的なお客さんを掘り起こすことができた実績が川崎にはある。

ボランティアさんをもっと大切にされた方がよい。

- ・三点目はダイナミックプライシングについてである。有料化して維持管理を負担してもらうのは非常によいことである。利用者は市外の方が過半数であるようだが、「市民の方々に対して優遇すること・メリットをつけること」を、よりきめ細やかに検討された方がよい。

- ・最後に市民ミュージアムのことであるが、現在どんな事業を通年でやるのか急いで固めている段階。今であれば色々な調整が可能。情報交換をされていると思うが、適宜フィードバックしてもらいたい。

- ・みどりの景観に人工物を全く排除する状態でミュージアムを維持するのは難しい。一定規模がないと色々な活動ができない。みどり景観に負荷をかけないようなデザインができるようになってきていると伺っている。調整点を見つけていただきたい。

事務局

- ・ご指摘の通り、生田緑地の価値魅力向上に寄与すること、と記載している。当然東地区ですので、同一に捉えて話を進めていきたいと思っている。ミュージアムとの関係について、市民文化局と連携しながら整備内容やソフト・ハードの部分の話を進めている。管理運営のやり方について一緒に整理できるのか、管理運営できるのか協議している状況。文化施設と植物の施設で分野が異なるため、管理はどういう形が望ましいかは民間の事業者と協議しながら取り組んでいきたい。

- ・ボランティアについてであるが、閉鎖期間中にも、再開に向けてどう活動していくのか検討を進めていきたい。

- ・料金制についてであるが、他の園も参考にしながらハイシーズン・ローシーズンで分けて料金をいただく検討はしている。他都市の状況で、有料化にあたって市民割引が話題となり、議会から指摘を受けている話も伺っている。市民割引や子供向け料金の導入等も検討しており、資料では考え方を示している段階のため、今後の状況を踏まえて設定していきたいと考える。

- ・市民ミュージアムとの関係性であるが、一体となって検討を進めている状況である。施設の部分について、共用部分の使用イメージを挙げるなどして協議している。今後も調整を図っていく予定である。

金子会長

続いて、橘先生に発言をお願いする。

橘 委 員

現在のボランティアはチームで活動している方と個々で活動している方がいらっしゃると思うが、過去の生田緑地の関連計画にもあるように、緑に関わる担い手の持続性が低くなっているのは生田緑地全体の課題である。生田緑地のなかにある、ばら苑も同じ状況であると考ええる。職員の情報と地域の方々の知っている情報が異なると対話の際に双方の前提条件が異なってしまう。単に「他の事例の視察結果を報告します」というスタンスではボランティアなどの市民の皆さんとの知っている情報が異なってしまうので、対話の際、溝ができる可能性がある。職員だけが知るのではなく、市民と一緒に勉強会や見学会などを、時間を設けてやってみると良いと考える。例えば、ばら苑であれば、ばら苑自体を大切に思い、お手伝いしてくれている方々、その周りにいるゆるやかなファン、もしかしたらこの先支援者になってくれる人たちがいるかもしれない。そういう方々とどういう風に対話していくのか。少なくとも身近な存在であるボランティアには、検討している職員の皆さんと同じ視点で考えてもらえるように、そして一緒に動こうというような機運を高めるような対話をするとうい。ばら園は、ファンが付きやすい施設であると思うので、上手に整備前・整備期間中に対話をする。そのように丁寧に対話していくと、直接対話する市民だけでなく、サイレントマジョリティ的な少し離れたところから気にしている人たちにも、この事業の見え方が違ってくる。課題を前にした時、直接対話する市民だけでなく、その背後にいるより多くの市民が注目し、応援してくれるきっかけになるのではないかと思いますので、対話・周知の姿勢を改めて検討していただきたい。また、ボランティアが主体的に参加できる入口を設けたほうがよい。市民参画のワークショップを得意とする事業者を入れるなどすると事業の成功に繋がるのではないかと。

事 務 局

・ご指摘の通り、担い手不足は生田緑地ビジョンの中でも取り上げている。20数年が経過しており、当初から関わっていただいている方もいれば、途中から関わっていただいている方もいるが、バラは人気があるため、新たな方も入っていただいているし、潜在的なファンもいる。幅広い層が参加できるような仕組みを考え、ボランティアのすそ野を広げていきたい。ばら苑をよく知っているのはボランティアや公園緑地協会であり、なるべく

現場にはいってお話を伺うようにしている。直接お話ができない方も対象に、アンケートを実施するなどしており、今後も進度・角度を挙げて丁寧に対話していきたい。現地にはボランティアさんが作ったエリアであるオールドローズコーナーがあり、こちらはボランティアが一から作り上げてきたコーナーである。活動を継承できるスペースは今後検討していきたい。

・今後料金制を設けるなど、民間の運営が入ってくるため、制限が入るエリアもできる可能性があるが、ボランティアがいきいき活動できるエリアなども、今後整理をしていきたい。

磯部部長

このばら苑は生田緑地の中のばら苑である、ということを忘れないで進めていきたいと考えている。ボランティアの方についても、どういった形で関わっていただくか、しっかり検討する。24ページに示しているボランティアの関わりや、どういったばら苑にしていくのが重要であると思っている。生田緑地の中のばら苑はどうあるべきなのかの検討を踏まえ、ボランティアにどういった役割を担っていただくのか検討していきたい。引き続きご助言をいただきたい。

橘 委員

制限についても、ボランティアが納得できるような対話ができればよいと考える。意見を伺うだけではなく、一緒に考えていく雰囲気をつくっていただくのが大事だと思う。

金子会長

倉本先生にお願いする。

倉本委員

・（ご持参の地図を提示）関東山地と、赤い丸が生田緑地で。まとまった緑が遠く離れたところに、普段これだけ広いと思っても、とっても小さな枠でしかない生田緑地。ここ（地図上で指示した場所）がばら苑と、駐車場です。赤丸を付けたところが水田、茶色の丸が畑、緑の丸が雑木林と茶畑であり、これは1880年の地図である。緑が豊かではなく畑や水田があり、周りは光を確保するために木を切ったり草を刈ったりで明るくなっていたと思われる。その自然を変えてはいけないうわけではなくて、どのように変えていくのか、どのように生物を豊かにしていくのかを考えて、生田緑地全体の一部として、マネジメント会議や自然会議で議論できるような形でばら苑や博物館を位置づけていただきたい。

・規範として、生田緑地憲章を20年ほど前に決めた。「持ち込まない・持ち出さない」という非常に分かりやすい言葉で示しているので、「ばら苑や博物館はどうするのか」というふうになるかもしれない。毎月勉強会を実施しているが、民家園の屋根の草棟についての研究や、生田緑地憲章策定の経緯、尼崎の森中央緑地という生田緑地のちょうど反対の自然の全くない埋め立て地に特定の流域からのみ、生き物を持ち込んで生物多様性を20年間かけて作った場所の講義をしてもらう。また、生田緑地憲章の背景になっている保全生態学の話や、大阪大学の佐伯いく代さんにお話しいただく。生田緑地憲章の内容をしっかりと理解できるように共有して、これからの具体的な内容を形成していきたいと考えている。

・カタバミで10円玉を磨くとぴかぴかになる。酸を含んでいるからである。繁殖の仕方も雄蕊の長さに多様性がある。入ってきた外来種によって繁殖が妨げられたり、ヤマトシジミという小さなシジミチョウが食べるのだが、普通のカタバミとちがう赤いカタバミを食べさせると成長が遅くなる。このようにすごくありふれたものを、ばら苑の展示の中でバラを補完する植栽のようなもので揃えて楽しむようなことを考えたい。ばら苑だからと美しさでお金を取るのではなく、よそにないものをつくれないかと思っている。

事務局

・生田緑地憲章については、6月の議会でも虫取りの件についてのお話で、市議会の先生からも触れられたところである。市としても、憲章を市民に伝えていかなければいけないし、生田緑地憲章としてばら苑を整備するということを整理していかなければいけない。バラ以外の花を組み合わせしていくことを考えているが、生田緑地の近くにも色々なバラ園があり、同じ時期に咲くので競争が激しい。バラが咲いていない時期にも来ていただくためにも、他にない場所を作っていくのは課題。ぜひ今後ともご審議いただきたい。

金子会長

・生田緑地内の他の施設との運営における関係性についても、検討を進めていただきたい。

・ボランティアについてであるが、リセットされるのは分かるが、再登録となるのは懸念がある。ばら苑の施設オープンと市民協働のタイミングはずれると考えている。再整備中も関わっ

ていただくことも意識して進めていただきたい。

・ミュージアムの計画についてであるが、「ばら苑に隣接するミュージアム」であり、「ミュージアムに隣接するばら苑ではない」という観点で、市民文化の担当とも引き続き調整しながら進めていただきたい。

金子会長 他に発言があればお願いしたい。薬袋先生にお願いする。

薬袋委員

- ・26ページにあるような事業・運営手法については大事なことの
ため、丁寧に検討すべきだと思う。
- ・川崎市内でも色々な施設で指定管理者制度が導入されている
が、ワーキングプアを生み出す側面もあるため、そうならない
ようにしていただきたい。
- ・川崎市のばら苑ということで、学びの場になるようなばら苑と
するなど、他との差別化を検討いただきたい。
- ・ミュージアムについてであるが、「この大きさの中で何ができる
のか」という視点で考えるべきだと思う。
- ・マネジメント会議の会長をさせていただいているが、生田緑地
憲章をきちんと伝えていくことも大事だと考えている。

金子会長 事務局はなにか回答があるか。

事務局 調査について、緑政部の方では実施してないが、市民文化局と
も調整の上、範囲については広げていくような話ができればと
思っている。

薬袋委員 過去も全く調査していないのか。これまでの調査があればそ
の成果も使えるとよいと思う。

金子会長 他によろしいか。何かあれば事務局に意見をいただきたい。
事務局には更に検討いただきながら事業を進めていただきたい
と思う。以上で審議を終了とし、進行を事務局にお返しする。

事務局 ご審議いただきありがとうございます。最後に閉会の挨拶
でございます。磯部部長お願いいたします。

磯部部長 本日は第1回目ということだが、大変多くの貴重な御意見を

いただきありがとうございました。ボランティアさんの件や自然環境・景観への配慮といったところも、しっかり研究していきたい。今日いただいた御意見は市民文化局ミュージアムの担当とも連携して進めていきたい。特にどういったところで連携できるか、一体的な管理の方向性についてスピード感をもって検討していきたいと思う。また、生田緑地の中の青少年科学館・民家園・岡本太郎美術館という緑地の中にある施設、市民ミュージアムがくるということを踏まえ、連携を検討して進める。引き続きよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

事 務 局

それでは、以上をもちまして、「令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第1回生田緑地ばら苑再整備検討部会」を終了いたします。本日はありがとうございました。

以上